

令和4年度第2回常務理事会議事録

日 時：令和4年7月22日（金） 15：00～17：30

会 場：東京コンベンションセンター 5階 「中会議室Ⅱ—ABC」（ハイブリッドで開催）

理 事 長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

常務理事：大須賀 穰、岡本 愛光、工藤 美樹、関沢 明彦、永瀬 智、万代 昌紀、三上 幹男、
渡利 英道

監 事：藤井 知行、増崎 英明、八重樫 伸生

特任理事：川名 敬、宮城 悦子、横山 良仁

顧 問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：亀井 良政、小林 陽一、杉浦 真弓、中井 章人、増山 寿、吉田 好雄、
若槻 明彦

総会議長：久具 宏司

総会副議長：小谷 友美、田中 京子

幹 事 長：矢内原 臨

副幹事長：山上 亘

幹 事：池田 悠至、泉谷 知明、井上 大輔、井平 圭、桑原 慶充、小出 馨子、古宇 家正、佐
藤 健二、高江 正道、竹中 将貴、徳永 英樹、中川 慧、永松 健、野口 靖之、福原 理
恵、細川 義彦、森定 徹、矢幡 秀昭、山口 建

事務局：吉田 隆人、正宗 玄、加藤 大輔

15：00 理事長、副理事長、常務理事の全員が出席し、定足数に達しているため、木村正理事長
が開会を宣言した。続いて、令和4年6月25日に開催された令和4年度第1回常務理事会議事
録案を承認した。

I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（青木大輔副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

① 淵 勲^{ふち いきお} 功労会員（大阪）が5月28日にご逝去された。

(2) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

① 会議開催

令和4年度 第1回生殖・内分泌委員会（Web会議）	7月6日
---------------------------	------

② 不妊症治療に用いられる排卵誘発剤の添付文書における卵巣過剰刺激症候群に関する記載内容
についての要望書（診断に内診を使わない、という内容）を、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬

安全対策課長宛てに提出した。

[資料：総務 1]

木村正理事長 「生殖内分泌委員会の寺田先生には、非常に精緻にかつ詳細な文献も付けて纏めていただき感謝申し上げます。」

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 会議開催

婦人科癌取扱い規約病理編改訂初校後会議 (Web会議)	7月 4日
婦人科癌取扱い規約病理編改訂編集委員会コアメンバー会議	8月11日【予定】
令和4年度 第2回婦人科腫瘍委員会 (Web会議)	8月29日【予定】

永瀬智委員長 「7月6日の臨時の婦人科小委員会で、前回理事会で指摘された卵管がんと卵巣がんの診断に関して話し合った。登録システムを切り換えた場合に現行の診断基準が、反映されるような登録システムができるかなどについて議論をしたので、次回の理事会で報告したい。」

②3 学会合同の事業となる JESGO データベースへ、本会ホームページからリンクを貼ることについて、お認めいただきたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

青木大輔副理事長 「広報委員会とも相談をして場所など、上手く目立つところに作ってほしい。」

(ハ) 周産期委員会

① 厚生労働省科研班による HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル第2版に対するパブリックコメント募集についてホームページに掲載し、今月 29 日まで周産期委員会専用アドレス宛てのメールで受け付けている。

[資料：総務 2]

青木大輔副理事長 「集まり次第取り纏めて、この研究班に戻すこととしたい。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

① 会議開催

第2回女性ヘルスケア委員会 (Web会議)	9月 5日
-----------------------	-------

② 乳がん・子宮がん検診の普及に関する小委員会で、女性ヘルスケア委員会の学会研究計画として承認されている臨床研究 (申請受付番号 2021-6、承認番号 127) 「妊娠中に合併した乳癌、および分娩後 1 年以内に合併した乳癌に関する実態調査」のアンケート調査を、株式会社シスプロと業務委託契約を取り交わしたうえで実施することとした。

③ 書籍頒布状況 (6月30日現在)

	6月販売数	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステリン配合薬ガイドライン 2020 電子版付	100 冊	5,580 冊
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	21 冊	4,063 冊

ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW 付	25 冊	1,655 冊
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	9 冊	1,303 冊

(3) 「旧優生保護法検討委員会」

①旧優生保護法に関するアンケート調査の報告書を冊子として作成し、会員に配布する予定である。配布方法は学会誌との同封を検討している。

加藤聖子副理事長 「旧優生保護法検討委員会からは記載の通りで、今報告書の準備をしている。これを封筒に入れ冊子にして皆様にお届けする予定である。」

②第 74 回学術講演会の際、会長特別企画として「旧優生保護法を考える」(8 月 7 日(日))を開催し、学会からの『宣言』を行う予定である。

加藤聖子副理事長 「8 月の学科、学術集会の最終プログラムで、シンポジウムを行い、そこで皆様に認めていただいた学会からの『宣言』を行う予定である。その後、ホームページ等に載せたいと考えている。」

(4) 「75 年史小委員会」

①会議開催

令和 4 年度第 2 回 75 年史小委員会 (WEB 開催)	7 月 22 日
---------------------------------	----------

②前回作成した「50年史」掲載分から現在まで、25年分の本会歴史について過去の学会誌掲載記事等を基にまとめている。

③記事とするための「座談会」を2回開催する予定である。

第 1 回座談会	令和 4 年 11 月 5 日 (土) (予定)
第 2 回座談会	令和 5 年 1 月 27 日 (金) (予定)

第 1 回は【1997年～2010年】、第2回は【2011年～2022年】のトピックに分け、それぞれご参加頂く先生を検討している。

久具宏司議長 「75 年史小委員会で現在歴史の部分幹事の先生方が纏めており、間もなく第一次的なスクリーニングになると思われる。それとは別に、25 年分の座談会を開催する予定で、第 1 回の座談会を 11 月 5 日に、前半のおよそ 12～3 年部分について行い、年明けの 1 月 27 日に第 2 回の座談会で、後半の 12～3 年分を行う予定。」

④カラー頁の企画として写真を掲載する予定である。過去開催した学術講演会について、担当された大学宛てに写真をご提供頂けるかの問い合わせを行っている。

(5) 「データベース管理小委員会」

①会議開催

令和 4 年度第 2 回データベース管理小委員会 (WEB 開催)	7 月 20 日
-----------------------------------	----------

青木大輔副理事長 「腫瘍委員会、周産期委員会、倫理委員会から UMIN を利用して登録をしているが、UMIN に小修正の依頼することがたびたび発生している。しかしレスポンスが大変悪いという状況で、私と山上監事で UMIN へ行き、交渉してきた。結果は、UMIN に出向している方と、少

し対価を払うことで解決ができそうである。」

(6)「業務システム刷新に関する小委員会」

①新会員証等について

[資料：総務 3-1]

青木大輔副理事長 「今、システム構築を行っているが、内容を詳細に詰めたところ、さらに会員の利便性向上に資するシステムを追加する必要がある。」

②会員の利便性向上に必要な機能追加について

[資料：総務 3-2]

事務局高橋より追加機能を説明

青木大輔副理事長 「年度に全額支払うものではないが少額ではないので、次の理事会でも諮りたい。インターフェースもできるだけわかりやすくし、幹事の先生中心に細部まで見ていただき、あと何単位を取れば更新できるか、自分の単位は今合計どのぐらいかということも、この機能ですぐに分かる非常にいいシステムかと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 第 74 回学術講演会（福岡）へのイベント保険加入について

台風等の悪天候、地震の影響で、急遽完全 WEB 開催となった場合の保険。 [資料：総務 3-3]

青木大輔副理事長 「コロナに関しては一切保険がきかないが、当該費用についての保険であり、本会から保険に加入したい。」

木村正理事長 「保険料は、本学会から費用を出すものとする。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 事務局次長として、^{まさむねげん}正宗玄さんが 7 月 11 日付けで着任した。三菱 UFJ 信託銀行からの出向期間を経て、令和 5 年 4 月 1 日付けで正式採用とする方針である。尚、前任の磯秀則さんは 6 月末付けで自己都合退職した。

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①会員周知依頼（本会ホームページに掲載済）

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局医薬安全対策課	組換えコロナウイルス (SARS-CoV-2) ワクチンに係る「使用上の注意」の改訂について	[総務 4-1]
こども家庭局母子保健課	令和 4 年 7 月 14 日からの大雨による災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	[総務 4-2]

②会員周知依頼

部署	内容	資料
医薬・生活衛生局医薬安全対策課	ポリファーマシーに対する啓発資材の活用について	[総務 5-1]
医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室	医療事故情報収集等事業第 69 回報告書の公表について	[総務 5-2]

長、医薬・生活衛生局医 薬安全対策課長		
------------------------	--	--

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③子ども家庭局長より「令和4年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」の後援依頼を受領した。 [資料：総務6]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ④厚労化研事業「救急医療等における基盤整備のための情報項目等の標準化」に関する取り纏め資料を受領した。本会としての意見があれば、8月末日までをお願いしたいとのことである。 [資料：総務7]

木村正理事長 「これは周産期委員会に検討をお願いする。妊娠に関しては、妊娠出産と、いわゆるメディカルコントロールと違う形で、救急的なことが行われているところもまだ多いため、現状を踏まえて意見をいただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ⑤厚労科研研究班事務局より「看護職及び特定行為修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」を開始し、今年度は推進したい医行為や医行為に関するガイドライン等の整備、研修会等の実施について9月に調査を実施する旨、事前案内があった。 [資料：総務7-1]

青木大輔副理事長 「事前案内だが、本格的な調査は9月に来るため、今から考えておくようにということ。これは、タスクシフトが絡んでくるので、未来委員会の先生方と各疾患別ということで、各専門委員会の先生に、依頼が来た段階で改めて意見を頂きたいと思う。難しい案件になると思うが、そのような対応でよいか。」

木村正理事長 「本件は意見がまとまりにくいと思うが、既に未来委員会の先生方が考えられていたようなので、その意見もいただきたいと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

- ① 日本医学会「未来への提言」に対する本会の意見を提出した。 [資料：総務8]

- ② 日本医学会連合「厚生労働科研」門田班 臨床外科グループの令和4年度キックオフミーティングが7月12日にWEB開催された。本会から、青木大輔先生、永瀬智先生、宮下進先生、山上亘先生に出席頂いた。 [資料：総務9]

青木大輔副理事長 「門田班から分担の研究費を、上限250万でいただけるとのこと。主としてデータセンターでの解析費用に充てるということと、婦人科腫瘍のデータベース、周産期のデータベースを使って、これまでのトレンドを報告するため、永瀬先生のグループおよび宮下先生のグループに幾何か研究費を使っていただくことで申請をしたい。250万円が上限だが金額は未定。本件認めていただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③ 日本医学会より会員への周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載したい。

依頼元	内容	資料
独立行政法人医薬品医療機器総合機構レギュラトリーサイエンスセンター長	MID-NET の利活用者を対象とした研修の取扱いについて	[総務 10-1]
独立行政法人医薬品医療機器総合機構レギュラトリーサイエンスセンター長	MID-NET の利活用に係る申出等の事務処理手続の取扱いについて	[総務 10-2]
独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長	MID-NET の利活用に関するガイドラインの一部施行について	[総務 10-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 予防接種推進専門協議会

同協議会から厚生労働省への要望書（「高齢者の肺炎球菌ワクチンに関する要望」「带状疱疹予防ワクチンに関する要望」）に参加団体として本会も連名することを承認いただきたい。

[資料：総務 11-1～11-3]

川名敬特任理事 「予防接種推進協議会の方で二つ要望書を考えている。一つ目は、高齢者に対する肺炎球菌ワクチンに関する要望。予防接種法上、肺炎球菌はB類ということで予防接種に関する義務がないが、これを義務化した地域もあり、かなりばらつきがある。国としてA類の接種奨励努力義務にするようにという要望書である。

続いて、带状疱疹の予防ワクチンに関しての要望。これも自治体によって随分ばらつきがあり、国としてこの带状疱疹ワクチンの早期の定期接種ワクチンへの導入をお願いするという要望。この要望書に本会を予防接種推進協議会の1人とする事の審議。よろしくお願ひしたい。」

青木大輔副理事長 「我々の患者も対象になるため、決して悪いことではないと思うがいかがか。」

木村正理事長 「ワクチンに対してなるべく名前を連ねてもいいと考えている。ぜひご理解願ひたい。」

青木大輔副理事長 「我々の学会は、ワクチンに理解があるというところを示すということもある。よろしいか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 第1回臨時理事会で承認頂いた「キャッチアップ HPV ワクチン啓発動画」について

宮城悦子特任理事 「ワクチンの接種間隔について HPV ワクチンと他のワクチン、不活化同士が同日に打てることになったが、会員に十分に伝わっていないようだ。木村先生と医会の石渡先生の名前で案内を發出したい。接種間隔のルール、公費と任意の場合との違いなど複雑な内容をわかりやすく解説したものを作成中である。医会の先生方もまだ供覧中で、理事会のメーリングリストに週明けに流させていただき、その後学会会員向けに流すことを、常務理事会で了承いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

宮城悦子特任理事 「日本のキャッチアップ HPV ワクチン接種推進の動画を、香港の女優を使って

作成するプロジェクト。前回理事会で認められた Youtube 版と tiktok 版ができたので、ご覧いただきたい。」

Youtube 動画視聴

宮城悦子特任理事 「子宮頸がんに対する情報がやや足りないとの声もあるが、今回は、これできたい。」

Tiktok 視聴

視聴された方からは、テレビコマーシャルよりは、かなり分かりやすいという意見をいただいている。」

青木大輔副理事長 「すっきりしてとてもいい。ポイントだけをしっかり示しているところがよいと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (万代昌紀常務理事) 特になし

3) 学 術 (岡本愛光常務理事)

(1) 学術委員会

① 会議開催

International Session 委員会 (JSOG Congress Award 選考委員会)	8月5日(金)【予定】
JSOG Congress Encouragement Award 選考委員会	8月5日(金)～6日(土)【予定】
優秀日本語演題賞選考委員会	8月7日(日)【予定】
健康・医療活動賞予備選考委員会	7月下旬【予定】
教育奨励賞予備選考委員会	8月中旬【予定】
筆記試験問題評価委員会	8月17日(水)【予定】
令和4年度第2回学術担当理事会	9月2日(金)【予定】
令和4年度第2回学術委員会	9月2日(金)【予定】
学術講演会評価委員会	10月11日(火)【予定】

② 各賞推薦・応募について

・令和4年度健康・医療活動賞には12件(個人3件、団体9件)の応募があった(応募期間2022

年6月1日～7月10日)

・令和4年度教育奨励賞：推薦期間2022年7月1日～7月31日(学会雑誌4月号掲載)

・令和4年度学術奨励賞：推薦期間2022年10月1日～10月31日(学会雑誌7月号掲載)

・令和4年度優秀論文賞：応募期間2022年12月9日～2023年1月10日(学会雑誌7月号掲載)

③ 他団体の特別賞推薦について

- ・「2022年度朝日賞」候補者推薦依頼を受領した。提出期限が次回理事会開催前の8月25日必着であるため、候補者推薦を受けた場合は、学術担当理事会に審議をご一任いただきたい。

[資料：学術1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) プログラム委員会関連

① 第74回学術講演会プログラム委員会

第74回学術講演会開催について（コロナ感染対策、歓迎の夕べの人数制限、アンケート調査結果（現地参加見込み人数）、現地に参加できないポスター発表者への対応について等）

矢幡秀昭第74回学術講演会プログラム委員長 「現状行動制限が出ていないので、第74回はハイブリッド開催を予定し、オーラルプレゼンテーションに関しては、事前に音声入りのパワーポイントの提出により現地で発表、ポスターは、現地のみでの発表とディスカッションとする予定。続いて8月4日予定の海外招待者との意見公開会だが、予定通り行う方針。1テーブル6名とし、パーテーションを準備。原則着席でテーブルを離れてお酒を注ぎ回ることにはしないような形で準備をしている。歓迎の夕べは、8月5日に、マリンメッセで開催を予定している。以前のような立食ではなくスクール形式にし、1テーブル2名で皆同様にステージの方を向き、着席して飲食をすることを考えている。海外招待者との意見公開会同様、お酒を注ぎ回ることなどは遠慮願いたい。係る状況下このスタンスでいいかどうかも含めて、議論願いたい。」

木村正理事長 「コロナ禍がここまでになるとは想定外であったが、あと2週間に迫っており、飲食時には基本手酌で酌をして回らないなどを守っていただき、食事提供の場は実施するということが、行動制限等が出た場合にはいろいろ見直しをするということだが、よろしいか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

加藤聖子副理事長 「今回、今まで来たことのない非会員の研究者から、数名参加したいという問い合わせを受けた。会長判断で、非会員（初期研修医・メディカルスタッフ同等）の値段と同じ3000円の登録をお願いした。ホームページでは、非会員・メディカルスタッフはあるが、看護師さんや助産師さんを念頭に置いたもの。非会員ノンメディカルはないため、次回以降こういう方たちの会費等はどうするかなどは、また学術委員会で論議いただきたい。」

木村正理事長 「倫理関係の研究者の方が非常に興味を持っていると聞いており、その方々に非会員（医師）の2万5000円をお願いするのは如何なものかということで、こう判断した。よろしいか。」

本件については特に意義はなく、全会一致で承認された。

② 第75回学術講演会プログラム委員会

一般演題の募集を開始する。募集期間：9月1日（木）正午～10月25日（火）正午、
修正期間：10月25日（火）正午～11月1日（火）正午（学会雑誌7月号掲載）

③ 第76回学術講演会プログラム委員会（学会雑誌7月号掲載）

- ・特別講演演者の推薦について 推薦期限：2022年11月30日（水）
- ・シンポジウム担当希望者公募 提出期限：2022年11月30日（水）

④ 第77回学術講演会プログラム委員会（学会雑誌7月号掲載）

- ・シンポジウム課題公募について 提出期限：2022年11月30日（水）

4) 編集 (加藤聖子副理事長)

(1) 会議開催

第2回和文誌編集会議・第2回 JOGR 編集会議 (ハイブリッド開催)	7月22日
第2回編集担当理事会	9月2日

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: (6月30日現在)

[資料: 編集 1]

	2020	2021	2022
Pending / Withdrawn	49	56	301
Accepted	499	425	59
Rejected	1914	2119	807
Grand Total	2462	2600	1167

(3) 英文機関誌 (JOGR) のインパクトファクターについて

[資料: 編集 2]

加藤聖子副理事長 「今年のインパクトファクターは、昨年比若干下がったものの1.7前後ということで大きな変化はない。citationに限って言えば、昨年1005だったのが今年は1225、JOGRの論文を引く数は着実に伸びている。ただ分母になる論文がJOGRの性格上、ケースレポートなども入り、分野も広いため、このような値になるが、やむを得ないとの認識。さらにcitationしていただく工夫をしていきたい。」

(4) 和文機関誌第75巻特集について

加藤聖子副理事長 「8月中旬までに論文タイトル案と執筆者を決定し、執筆依頼をする予定。本日はヘルスケアや生殖、そして腫瘍部門で特集をいただくことまで決まった。よろしくお願ひ申し上げます。」

(5) 和文機関誌への同梱依頼について

[資料: 編集 3]

・9月号: カイトーより 団体保険制度チラシ

本件については特に意義はなく、全会一致で承認された。

(6) 和文機関誌8号の発送遅延について

発送業者の夏季休業により、1週間程度学会誌到着が遅くなる予定である。

5) 渉外 (大須賀穰常務理事)

(1) 7月1日、RCOG Congress 2022 への現地派遣が中止となった若手医師への本会特別企画という位置付けで、JSOG とオックスフォード大学間の若手医師交流企画 “International Exchange Meeting for OB-GYN Young Doctors” を Web 開催した。

[資料: 渉外 1]

(2) ロー対ウェード判決を覆す米国最高裁の判断に関する FIGO 声明について、理事の賛成多数によ

り本会として連署した。

[資料：渉外 2]

(3) FIGO 規約改定の決議案に本会が合意する旨 FIGO に返信した。

[資料：渉外 3]

(4) 7月7日、8日に FIGO Council meeting が Web 開催され、本会より大須賀穰渉外委員長が出席した。

[資料：渉外 4]

(5) RCOG より、2025 年に開催を予定していたロンドンでの RCOG Congress を、2023 年 5 月 3～5 日に開催することとなり、JSOG からの現地派遣を受け入れたいとの連絡を受けた。2022 年現地派遣中止となった若手医師 3 名を 2023 年に派遣する方向で本人の意思を確認したところ、天雲千晶先生（香川大学）が辞退された為、選考時次点となっていた瀬尾瑛美先生（順天堂大学）を繰り上げて派遣したい。

本件、特に意義はなく、全会一致で承認された。

(6) 7月15日、RCOG President、President elect、および CEO との Zoom ミーティングに、本会より木村正理事長、大須賀穰渉外委員長、永松健渉外主務幹事が出席した。

[資料：渉外 5]

(7) 本会より AFOG Maternal Fetal Medicine committee representative に推薦した牧野真太郎教授（順天堂大学浦安病院）が、同 Committee の member に選ばれた。同様に、平池修准教授（東京大学）が Sexual & Reproductive Health Committee member に選ばれた。

(8) 中絶に関する Brief Communication paper に対する Response として本会が International Journal of Gynecology & Obstetrics (IJGO) に投稿した記事への反論が寄せられ、再度、女性ヘルスケア委員会作成による本会の Response を IJGO に投稿した。

[資料：渉外 6]

木村正理事長 「黙ってしまうと賛成あるいは認めたことになってしまうため、本件はまだ黙らないほうが良いと思い、レスポンスを書いていただくこととした。無事投稿が済み、本当に感謝している。」

6) 社 保（永瀬智常務理事）

(1) 会議開催

第 1 回社保委員会（ハイブリッド開催）

7 月 22 日（金）常務理事会後

(2) 日本産婦人科医会より、社保委員会への委員推薦変更の連絡を受けた為、前村俊満先生に社保委員を追加委嘱したい。なお、倉澤健太郎委員には、医会推薦の委員としてではなく、一社保委員としての継続を依頼し承諾を得た。

[資料：社保 1]

本件、特に意義はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本医師会疑義解釈委員会より、医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目（03 疑 3233）の検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(4) 日本医師会より疑義解釈委員会委員の推薦依頼を受け、西井修副委員長を推薦した。

[資料: 社保 2]

(5) 令和4年度診療報酬改定による特例として、岸裕司先生（東京慈恵会医科大学、日本生殖医学会理事・社保委員会委員）に委員追加委嘱したい。

永瀬智常務理事 「今回の診療報酬改定で不妊診療の件が保険収載になったが、種々対応が必要で、来年6月までの特例として、委員を1人増員願いたいとのこと。については東京慈恵医科大学の岸先生に委員の追加委嘱をしたい。内規上は30名までと、社会保険委員会の委員は、委員長副委員長を入れて30名までだが、(2)にある倉沢先生を委員として留めておくと30人となってしまっている。その後この要望を受けたため、来年6月までの特例として、お認めいただきたく審議願いたい。」

木村正理事長 「いかがか。よろしいか。31人目になってしまうが、生殖関係のことは確かに容易にはわからないので、専門の先生が必要だということ。特に異論なければ、認めたい。会議等も徐々にWEBになってきており、それも含めて、ある程度の人数でも予算的にも大丈夫と思われるので認めていただきたい。よろしいか。」

本件、特に意義はなく、全会一致で承認された。

7) 専門医制度（関沢明彦常務理事）

(1) 日本専門医機構関連

① 会議開催

日本専門医機構 令和4年度定時社員総会	6月29日
---------------------	-------

② 専門研修プログラム整備基準および専門研修カリキュラム制整備基準の改訂について

[資料: 専門医 1-1~1-3]

関沢明彦常務理事 「出産に伴う休暇、或いは疾病での休暇は、1回に限って研修期間に含めることができると記載された部分だが、出産に伴う休みは休業ということ、疾病は休職という言葉の使い方が正しいとこのことで、この言葉全てを休職期間として修正した。また休暇は1回に限ってと書いてあるが、例えば産休を取った医師がコロナで休職した場合は、何回目になるのかという問い合わせがあり、6ヶ月以内であれば認めると修正した。また、カリキュラム制の整備基準も同様な修正を合わせて行った。」

③ 日本専門医機構からの2023年度臨床研究医コースの募集について [資料: 専門医 2-1~2-3]

(2) サブスペシャルティ関連

① 会議開催

第3回サブスペシャルティ領域連絡協議会	7月26日【予定】
---------------------	-----------

(3) 学会専門医関連

① 会議開催

第2回中央専門医制度委員会	6月26日
全国地方委員会委員長会議	6月26日

②2022年度専門医認定二次審査（筆記試験、面接試験）は7月23日・24日に2019年度までと同様に東京・大阪の2会場で実施する。

関沢明彦常務理事 「今年度は、2019年までと同様、東京と大阪の2会場で実施する予定。コロナに感染した受験生は受験できないのは当然だが、濃厚接触者についても、厚労省の基準を満たしていなければ受験は不可とする予定。受験生の欠席に加えて面接官も、感染者、濃厚接触者が発生するかもしれないが、その場合は各施設が代理を出して補充し、万全の体制で試験に臨めるよう準備をしている。基本的に、感染対策を十分に行いながら、予定通り実施したいと考えており、ご理解いただきたい。」

木村正理事長 「専門医試験は大変な時にあたってしまった。今月に入ってから増えはじめたため、いろいろ議論したが、1ヶ月前で変えることは不可能であろうということで、このまま突っ切ることにした。予定通り2会場で進めたい。先生方の中にも委員等がたくさんいるだろうが、大変な中ご協力よろしくお願ひしたい。」

8) 臨床倫理監理委員会（三上幹男常務理事）

(1) 会議開催

第1回登録・調査小委員会（Web）	7月12日
第3回不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会（Web）	7月19日
第3回重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会（Web）	7月27日【予定】
第2回臨床倫理監理委員会（Web）	8月2日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録（令和4年6月30日）

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録	111 研究（47 施設）
体外受精・胚移植に関する登録	628 施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	628 施設
顕微授精に関する登録	604 施設
医学的適応による未受精卵、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	174 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	12 施設

(3) 着床前診断に関する申請・認可について（令和4年5月17日）

- ・施設申請：50件《承認27施設（うち条件付き：6施設）》 [資料：臨床倫理1]
- ・症例申請：1,026例《合計件（内訳）承認903例、非承認42例、審査対象外35例、取り下げ5例、照会39例、保留2例》（承認例のうち134例は条件付き） [資料：臨床倫理2]

(4) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

- 妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）審査状況・承認施設 [資料：臨床倫理3]
- ・現在129施設である。124
- ・温存後生殖補助医療施設認定を開始するため、既に妊孕性温存療法実施施設として認可されて

いる施設ならびに新規施設を対象とする、Web 申請フォームを新たに設けて、がん・生殖医療施設認定小委員会のホームページからアクセスできるように会員に対して周知を行った。

[資料：臨床倫理 4]

(5) 厚生労働省への要望書提出について

[資料：臨床倫理 5]

三上幹男常務理事 「PGT-A の運用の監理について、国がきちんと関与して、倫理問題も含めた上で対応して欲しいという要望書を提出した。ホームページにも掲載したが、これに先立って、約 600 施設に及ぶ日産婦が登録を認定している ART 施設には、見解遵守をお願いしたいと、誓約書の提出を依頼している。現在 450 施設から提出があり 73.4%、約 27% 程度の施設は様子見と思われ、催促していきたい。」

(6) JSOG2022 福岡での臨床倫理監理委員会企画について

[資料：臨床倫理 6]

三上幹男常務理事 「前半は ART 施設への説明会ということで運用面のことを話す。後半は PGT-M、NIPT に関してのアカデミック的な話をする。そこでの PGT-M、A、SR に関する内容を簡単に話す。現在 PGT-A は特別臨床研究を行っている。これは期間を延長することになったが、症例の登録は、8 月末で終了する。その後は見解に基づいた運用を行う。その間に、きちんと周知をして登録データ等をどうするかなど話していく。9 月に入った時点で見解に基づいて進めていく。先進医療 B についての申請の状況については、木村先生に願います。」

木村正理事長 「PGT-A の先進医療については、思うように進んでおらず、先進医療 B になると、その症例数とか様々な条件を出して失敗できない。加えてユーザーを必ず出す必要があることから随分神経を使って、文面を調整中である。また、それぞれ申請する大学と組んでもらうクリニックとの間の調整も行っている。現在進んではいるが申請にはまだ至っていない状況。」

また、先ほど案内漏れしたが、専門医機構から 2023 年度臨床研究医コースの募集があった。産婦人科はあまり関係なく、毎年 2 校程度が応募している。1 回目は私も応募したが、今回これまでに応募がない。これはどうなのか。その辺り、みなさんどう思われるか。」

関沢明彦常務理事 「本件については全く承知していない。」

木村正理事長 「昨年度は岐阜大と金沢医大が応募していただいたと思う。」

関沢明彦常務理事 「岐阜大と東京医大が昨年であったと思われる。」

木村正理事長 「1～2 校が応募していれば、産婦人科は無関心ではないと示せるので、そのあたりの配慮をお願いしたい。また、福岡での臨床倫理委員会の企画に関して、いろいろな企画があるが、特に企画 2 番の方は参加いただきたい。よろしく願います。」

9) 教 育 (渡利英道常務理事)

(1) 会議開催

教育委員会	8 月 29 日 (WEB 開催) 【予定】
医学教育活性化委員会	6 月 27 日 (現地開催)

(2) 書籍頒布状況 (6 月 30 日現在)

	6 月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第 4 版 (書籍版)	3	1,028

用語集・用語解説集改訂第4版（電子版付）	16	1,235
専門医試験例題と解説 2020	27	1,358
専門医試験例題と解説 2021	44	1,213
2021年度 専門医筆記試験過去問題・解説集	95	552
産婦人科専門医のための必修知識 2020	42	3,018

(3) 専門医試験作成委員会

2022年度専門医認定試験問題（製本）を7月12日に中央専門医制度委員会に提出した。

(4) 用語集・用語解説集委員会

分野ごとにファイルメーカーを用いて既存掲載用語を査読している。新規掲載語の候補選出に向け、第74回学術講演会に合わせて現地およびWEBで分野ごとの会議を行う。また、査読期間中に他委員会等からの新規用語や用語集に関する意見をいただき、適宜対応を行っている。

(5) 産婦人科専門医のための必修知識編集委員会

11月の発刊に向け、校正、転載許諾確認を行っている。

(6) 医学教育活性化委員会

産婦人科医のためのFD(faculty development)の開催準備をしている。また、教育ツールとしての動画コンテンツ、プラットフォーム、HPの作成を依頼する業者の選定を行った。さらに、第74回学術集会の教育委員会企画の準備を進めている。

渡利英道常務理事 「FDの開催は、10月末に予定し準備を進めている。また、福岡での第74回の学術集会の際には、この教育委員会の中の医学教育活性化委員会の企画で、グッドプラクティスの紹介と、前回示したアンケート調査などの分析に基づいて、少しディスカッションを行う。さらにこの医学教育活性化委員会がどのようなことを目指しており、会員の先生方が教育を行っていく際に役に立つような活動をこれからも行っていくということを強調する内容。」

木村正理事長 「特に教育の問題に関しては、市中病院で初期研修を受けるのはとても大変で、その際に本件が大変助かると思うので、是非よろしくお願ひしたい。また専門医試験の試験作成は、本当に手間が掛り大変なため、今年のような事態では、2回目の試験問題を作ることは物理的に無理だということを、この常務理事の中でコンセンサスとして持っておきたい。同様なことが続くと、再試験の試験問題をしないのかといった話が出る可能性があるが、作成量の多さや、非常に精緻に作成している状況から、先生方に二部作成をお願いするのは余りに酷なことである。再試に関しては将来的にも制度的に難しいという理解でよろしいか。」

渡利英道常務理事 「よろしいと思う。」

木村正理事長 「これ以上は無理と思うので、再試験はしないという事でよろしくお願ひする。」
本件、特に意義はなく、全会一致で承認された

10) 地方連絡委員会（渡利英道委員長） 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（工藤美樹常務理事）

(1) 会議開催

第1回広報委員会（WEB開催）	7月20日（水）
-----------------	----------

(2) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

工藤美樹常務理事 「定例報告の JOB-NET の公募状況について、17 件の募集をしたが、応募は 4 件で採用されたのが 2 件という状況。アクセスは大体平均して 80 万回だが、コロナウイルス感染症の感染状況によって変動している。

(3) ホームページについて

① ホームページアクセス状況について

[資料：広報2]

② 総務からの依頼「本会ホームページに、医育機関（大学）に限定した産科婦人科学関連の教授、特任教授等についての公募コーナー新設を承認いただき、広報委員会に検討をお願いしたい。」について、本委員会で検討した結果、まずは医育機関を対象に依頼が来たものに対して掲載する案を提示したい。

工藤美樹常務理事 「本件は和歌山県からの公募を学会ホームページに載せて欲しいという依頼に対応するもの。同様の医育機関からの依頼を受けた際は、ホームページに新しいコーナーを作り掲載してはどうかということで、先日の広報委員会でも承認された。本件承認をいただきたいが、如何か。」

木村正理事長 「感謝申し上げます。医育機関からの教授、特任教授のポジションがあることのホームページの掲載だが、発信力のある大学と発信力の弱い、難しい大学がどうしてもあるため、本会のホームページで会員の目に触れるのも、これから大事だと思っている。よろしいか。」

本件については、特に異論はなく全会一致で承認された。

(4) SNS に関するアンケート

広報委員会内での SNS に関するアンケート結果報告

[資料：広報3]

工藤美樹常務理事 「賛成が 6、反対が 6 と完全に 2 分した結果。反対理由は、管理が困難、炎上の恐れ、現行ホームページで十分との意見。SNS を利用することに関して、木村先生からアドバイスいただいたが、会員向けなど、学生と研修医に限定して作るのいいのではないかとのこと。今後学会専用アプリの運用が開始されれば、それをまずは利用し、順次、LINE や、フェイスブックなどに移行させてはどうかということ。これに関していかがか。」

三上幹男常務理事 「倫理委員会の情報は、前回の理事会でも承認されたように、QR コードをつけて動画等につなげるポスターを作成し、ART 施設に配ることで進めていく予定。今回 SNS には種々問題があるとのことで、検討されたことが、よく理解できた。感謝する。」

木村正理事長 「学会からはプッシュメール等でいろいろな情報を流しているが、特に若手の先生がそもそもメールを見ていないという、そもそも論を感じたためお願いした次第だが、丁度、学会専用アプリができるので、まずそれをうまく使って情報拡散するというので検討いただいている。本当にいろいろな面を見ていただき、ありがたい。勉強になった。また引き続きよろしく

願います。」

工藤美樹常務理事 「そういう考えでやらせていただく。」

(5) HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会について

会議開催

第1回 HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会 (Web 開催)	6月10日 (金)
--------------------------------------	-----------

(6) 女性の健康週間に関する小委員会

① 会議開催

第1回女性の健康週間に関する小委員会 (Web 開催)	7月7日 (木)
-----------------------------	----------

② 2023年女性の健康週間活動について

丸キャリアセミナーはオンライン開催を予定している。また、今回も前回同様にセミナー事後採録記事を作成し、学会誌に同梱予定である。 [資料：広報4]

工藤美樹常務理事 「内容はメンタルヘルスが、女性の孤独、自殺者増、更年期、PMS などに関係があるのではないかということや、不妊治療に関すること。保険適用が拡大されたことに合わせて、その他、健診だとか、プレコンセプションケアが大切といったことを載せる。」

③ 新聞紙面テーマの1つとして HPV ワクチンを取り上げたい。協賛として MSD を検討している。

工藤美樹常務理事 「HPV ワクチンに関して、昨年この常務理事会ではもう少し待った方がいいのではという意見だったが、2023年はいかがと、この常務理事会で確認してほしいという依頼があったもの。検討願いたい。」

木村正理事長 「MSD がバックにつく形で、丸の内キャリア塾でセミナーをするのか。」

工藤美樹常務理事 「新聞広告である。」

木村正理事長 「新聞広告では、この丸の内キャリア塾セミナーは独立にして、その下に MSD が入るといふことか。」

工藤美樹常務理事 「然り。」

木村正理事長 「常務理事会の場でこれはしっかりとディスカッションする必要がある。」

工藤美樹常務理事 「承知した。上手くできるよう検討したい。」

小西郁生顧問 「資料の女性健康週間の後援団体の中に、日本医学会や日本医学会連合がなかった。日本医学会の未来の提言を読むと、女性ヘルスケアのことがまるで抜けており、本当にこれは大変なことだと思い、急遽木村先生に寄稿文を書いていただいた。やはり日本医学会、医学会連合の理事の皆様、きちんと女性のヘルスケアが置かれている現状を知っていただくのが大事ではないかなと思う。これから両団体に女性健康週間に対するご後援をお願いするのと、ヒューマンプラス、ベビープラスを医会の理事の方々に贈った方がいいのではないかなと思う。」

木村正理事長 「なるほど。」

小西郁生顧問 「日本医学会の皆様、女性ヘルスケアの置かれている現状を、本会から発信して、ぜひ知って欲しいし、何が必要かということをおわかっていただくことが大事かなと、つくづく思ったので、よろしく願います。」

木村正理事長 「確かに私が書いた文章は、高齢化社会はおめでたいことで、少子化さえなければ別に全然構わないと、みんな長生きで良かったではないかという話を書いた。仰る通り、折角な

ので、ヒューマンプラスを少しだけでも買い、医師会の理事の方々に送ることも、工藤先生と相談させていただきたい。それから、日本医学会連合には後援依頼をしたい。ここには医師会も入っているのか。」

工藤美樹常務理事 「入っている。」

木村正理事長 「了解。では後援依頼を日本医学会に事務局から、工藤先生と私の名前で、お願いすることとする。貴重な指摘いただき感謝する。本件、よろしいか。」

本件については、特に異論はなく全会一致で承認された。

2) 災害対策・復興委員会 (中井章人委員長)

(1) 会議開催

第2回災害対策・復興委員会 (Web 開催)	8月下旬開催予定
------------------------	----------

(2) 第58回日本周産期・新生児学会学術集会 (2022年7月10日～12日, パシフィコ横浜) 会期中の7月12日(火)に災害時小児期周産期リエゾン連絡協議会総会が開催され、中井委員長が日本産科婦人科学会災害対策・復興委員会の活動を報告し、鈴木委員がPEACE入力訓練を行った。

中井章人委員長 「PEACEでトラブルが発生している。理由は不明だが委託業者が勝手に、登録した全施設を抹消したとのこと。非表示となり一瞬現れないということが起きている。修繕を依頼したが直前のバックアップデータを取っておらず、初期のものしかないので修復に医会事務局が大変苦労したようだ。このPEACEの更新、作り直しは、来年度以降だが、やはり必要なものと感じた。58回の周産期新生児学会で、PEACEの維持について話してきたが、更新作業は学会で可能だが、メンテナンス、ランニングコストが非常にかかるのだということをお話したところ、小児科の現場やリエゾンをやっている先生方は、とても好意的で、予算付けは当然だろうというような空気があった。ただ日本小児科学会の災害対策の委員会、委員長の先生にはネゴしながら直接いろいろお願いしたい。」

木村正理事長 「ぜひ、せっかくの医療資源であり、我々だけが持っているというよりは全体で持っている方が理に叶っていると思うので、小児科学会と交渉をお願いしたい。」

中井章人委員長 「リエゾンの協議会の中では、非常に賛同いただいた提案だ。」

木村正理事長 「では学会間の交渉よろしく願います。」

3) 診療ガイドライン運営委員会 (杉浦真弓学会側調整役)

(1) 2020ガイドライン販売状況

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2020」頒布状況について (6月末日現在)

	6月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	45	15,754

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2020」頒布状況について (6月末日現在)

	6月販売数	累計販売数
--	-------	-------

書籍版(電子版付)	33	10,461
-----------	----	--------

(2) コンセンサスマーティング開催

第4回診療ガイドライン産科編 2023 コンセンサスマーティング	8月5日(金) 16:00~19:00 (ハイブリッド開催) 会場: 福岡国際会議場 5階「501」 (第74回日本産科婦人科学会学術講演会開催時)
第2回診療ガイドライン婦人科外 来編 2023 コンセンサスマーティ ング	8月6日(土) 16:00~19:00 (ハイブリッド開催) 会場: 福岡国際会議場 5階「501」 (第74回日本産科婦人科学会学術講演会開催時)
第3回診療ガイドライン婦人科外 来編 2023 コンセンサスマーティ ング	8月28日(日) 13:30~16:45 (ハイブリッド開催) 会場: ステーションコンファレンス東京 5階「501」 (単独開催)

(3) パブリックコメント実施について

産科編 2023 改訂版については、4回のコンセンサスマーティングでの議を経て本会機関誌9月号に94個、11月号に22個のCQ&Answer(案)を掲載し、パブリックコメントを実施する。今回は本会HPにも掲載し、会員のみではなく周産期医療関係者から幅広くご意見を頂く予定である。婦人科外来編 2023 改訂版については、本会機関誌10月号と12月号に分けて掲載する予定である。

4) コンプライアンス委員会(若槻明彦委員長)

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」が一部改定され、2022年版がホームページに公開された。今回の改定で日本医学会は、分科会発行医学雑誌(英文/和文)が論文投稿時に著者に提出を求める「利益相反 COI 申告書」について、ICMJE(医学雑誌編集者国際委員会) DISCLOSURE FORM 2021を採用し、ガイドラインに示したCOI申告開示様式を変更した。

コンプライアンス委員会は、編集委員会に対し、当学会の和文誌と JOGR が指定する「利益相反 COI 申告書」に変更が必要か検討を依頼し、さらに利益相反に関する指針と運用細則についても改定が必要か検討予定である。

[資料: コンプライアンス 1-1、1-2]

5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会(増山寿委員長)

(1) 「周産期医療の広場」の今後の方向性について [資料: サステイナブル 1-1、1-2、1-3]

増山寿委員長 「海野先生が3月退任し、今後の運営について協議を進めている。データベースの更新は、海野先生が年1回各地方部会の方にデータの提出を依頼し、その一つ一つを手修正しているのが現状。ホームページのアクセス数は、ホームページが開設された2013年頃が一番多数で、約7万件、現在は最大約3万5千件。そのほぼ95%が分娩施設の検索。委員会としては、分娩取扱施設のリストのこれまで海野先生がしてきた作業を引き継ぐのは、担当者や事務局の負担から非常に難しいと考えている。代替案としては、PEACEでも用いられ、毎年更新している日本産婦人科医会の分娩施設調査のデータの活用ができないかと考えている。しかし、スマホ検索が発達した状況で、これが本当に必要かどうか、皆さんの意見を伺いたい。またグーグルマップも掲載されているが、移転や新設の都度、施設ごとに経度緯度を手修正してきており、これも維持

するのは難しいと考えている。ところが、これも PEACE でも用いられており、一般掲載については情報を医会からいただけるのであれば、掲載場所や内容などについて慎重に協議したいと考えている。以上の検討状況を踏まえて、分娩取扱施設のリストの更新については、今後は医会に協力を依頼して、そのデータをまず PEACE で用いたらどうかと、医会の石渡会長に木村理事長名での依頼文書を出すことを検討している。また、グーグルマップについても、災害復興委員会の PC で用いられており、もう少し検討が必要と思っている。またこれまでの記録や動画などは、サステイナブル委員会内にコーナーを作り、そこに保存することにしたいと考えている。もし認められるようであれば、外部委託業者に月 5 万円払っているが、独立したサイトではなくなるので契約解除したいと考えている。サーバー内コンテンツの学会ホームページの移設については、年度末に自動更新、1 ヶ月前までの通知が必要であるため、できれば年末または 1 月の常務理事会までには最終的な結論を出して契約解除できればと考えている。以上、ご審議ご検討よろしく願います。」

木村正理事長 「本件は本当に海野先生の絶大なるご尽力によってできてきたもので、特に分娩施設リストのマップは、これを使って、公衆衛生の先生が、分娩施設までの距離を測った研究もあったというふうに認識している。一方、現実問題として、メンテナンス面で継続が難しかろうということだが、いかがか。」

中井章人理事 「グーグルマップがなくなれば、施設情報は PEACE だけになるということか。」

増山寿委員長 「然り。」

中井章人理事 「PEACE についての医会の役員の認知度は非常に高く、この施設情報を PEACE に載せるため医会が情報を出さない理由はないと思う。ただし、海野先生ほどきめ細かく、毎月更新することは医会としても難しいので、年 1 回程度の更新であれば、間違いなく提供できると思うが、それぐらいでもよろしいか。」

増山寿委員長 「実は今も基本的には年 1 回の更新にしており、ただ情報の追加があった段階で少しずつ修正をしていたようで、基本はこれまでも年 1 回の認識だ。」

木村正理事長 「グーグルマップに関してはどうか。余りに勿体ない気もするし、もしも継続するとすれば、誰かこれに賛同する施設からお金を集める算段などを考えて、運用するぐらいでないとおそらくもう手弁当では難しいと思うが、ご意見いかがか。」

小西郁生顧問 「これは非常に難しいと思うけれども、これまで海野先生が本当に頑張ってくれ、できれば何としても続けて欲しいと思う。エネルギーがものすごく必要というのもよくわかるが、今後の日本全体の周産期医療の動向とか、医師の働き方改革だとか、いろいろなところの基本的な情報、基礎的ものを形づくる上で必要であり、何か発展的な方向性がないのかと思う。」

木村正理事長 「例えば 1 施設 5000 円を徴収し、2000 施設だと 1000 万円集まる。それで人を雇うとか、何か考えないとこのままでは恐らく無理だと思う。一方で、みな賛同するかどうか、それだけのメリットを思っているか、例え 5000 円であっても、そう思っていない人もいる。例えば公立病院とかは、どう払うのかという問題が残るだろう。それでも、なんらかの形で集金し、それを使って維持していくのは十分あり得ると考える。他に意見いかがか。」

中井章人理事 「3 万アクセス程度では、CM 媒体としてその施設にとっては、あまりメリットがないと思われるため、施設から集金するという考えは難しいと思う。」

木村正理事長 「難しいか。」

中井章人理事 「維持をするということだけがメリットといえればメリットであり、誰のメリットかというと、自分たちではないと判断される可能性はある。」

木村正理事長 「増山先生今のそのマップはそのまま残るとのことか。」

増山寿委員長 「リストは残るが、グーグルマップは、施設毎に緯度経度を入力し反映されるた

め、既存施設に移動がなければ残るが、新規開設や施設が移動した場合は新たに入力していく必要がある。」

木村正理事長 「その労力を維持することは、なかなか難しく現実的ではない。ただし、マップをどこかに見に行けば見られるように、例えば2021年12月現在として存置することは可能か。」

増山寿委員長 「可能だ。今のデータをそのまま残すことはできる。更新作業をどう分担していくかという点だけだ。」

木村正理事長 「わかった。更新は今のところ現実的ではなく、もう少し皆さんの意見を伺っていく。マップはどこかに収納しておくのが、今のところそれ以上なかなか結論が出ないと思われる。まずマップは消さずどこかに収納し、そのデータを、例えばサステイナブルのどこかに移管できるか。」

増山寿委員長 「十分可能と思料。」

木村正理事長 「今回はそこまでで、ペンディングとする。何か良い存続策があればよいが、それがなければ難しいと思われる。このような記録物などは、サステイナブル委員会で保存先を作り収納することで方向性を求めたい。それから、サステイナブル委員会から、分娩取扱施設リストについて石渡先生に、共有させて欲しいという要望書を作成いただけないか。」

増山寿委員長 「了解。理事長名と私と両方の名前で作成する。」

中井章人理事 「PEACEも入れていただきたい。」

増山寿委員長 「了解。」

本件については、特に異論はなく全会一致で承認された。

(2)4/16開催「拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会」の報告書を冊子体で作成し、全国の都道府県、各大学等へ送付、また、8月の学術講演会「指導医講習会」でも配布する予定である。

(3)本会会員を対象とする、産婦人科未来委員会との合同WGによるアンケート「2024年度より開始となる医師の働き方改革における時間外労働規制に向けた産婦人科医の勤務実態調査、および働き方希望調査」を7月14日までWebフォームにて実施し、計713名から得られた回答をとりまとめて、8月7日の学術講演会「指導医講習会」で報告させていただき準備を進めている。

6) 産婦人科未来委員会（吉田好雄委員長）

(1) 会議開催

第1回若手委員会およびサマースクール事前会議（ハイブリッド）	8月6日【予定】
第2回未来委員会（現地開催予定）	8月19日【予定】
第3回未来委員会（現地開催予定）	12月8日【予定】
第4回未来委員会（現地開催予定）	2023年 2月24日【予定】

※会議開催は時間外開催を避けるためにあらかじめ日程調整を行った。

(2) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会-産婦人科未来委員会合同WG

本会会員に向け、「2024年度より開始となる医師の働き方改革における時間外労働規制に向けた産婦人科医の勤務実態調査、および働き方希望調査について」のアンケートを発送した。第74回学術講演会サステイナブル委員会企画で、合同WGとして成果物を発表予定である。

(3) サマースクール (SS)

予想を超える多数の方からお申込みをいただき、参加者募集は既に締め切った。7月10日現在で参加が確定しているのは213名である。

予定通り現地開催予定であるが、今後の緊急事態宣言等によっては中止もやむを得ないかもしれない。

吉田好雄委員長 「政府のイベント開催等における感染防止安全計画に則って、感染対策を行う予定。会場内の収容人数も許容される範囲内で必ず収まるように、事前調整をしている。今回のサマースクールは、懇親会など食事をする機会はない計画。リクルートイベントの効果を考えると、ここ2年のWeb開催で若干、効果が低下傾向を認めており、500名雇用維持のため、より効果的なリクルートイベントにしたいと考えている。若手委員会、未来委員会としても、行動宣言が発出されない限りは、現地で開催したいと考えている。」

(4) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

医学科1~4年生を対象とした第2回WOW!を2022年10月10日(月・祝)にハイブリッド形式で開催する。

6月27日(月)からチューター募集を開始している。すでに43大学から参加のご連絡をいただいているが、参加未確定の大学には参加依頼を再送する。

(5) ホームページ (HPWG)

「産婦人科医への扉」に、2020年および2021年のリクルートアンケートの結果を掲載した。

青木大輔副理事長 「一つよろしいか。500人という数字はすごく重たく感じており、今回500人を超えたので大変喜んでいますが、それでも不足するかもしれない。そうであれば、500人という数字を改定することを考えではどうか。500人という数字は結構皆さんの間ではコンセンサスというか、浸透した数だと思われる。いかがか。」

吉田好雄委員長 「その通り。委員会の中では600人から700人ぐらいは目標にしたいと考えていた。ただ具体的に理由を検証していないので、未来委員会でその数字を検証し、提案させていただきたいと思う。」

中井章人理事 「以前海野先生と私が別の方法で計算し、大体500人に落ち着いた。その時の労働時間は、年間換算400時間ぐらいの法廷時間外労働で、この位であれば許容できるのではないかとということであった。」

吉田好雄委員長 「未来委員会の幹事で議論した中では、今、女性医師の割合が非常に多くなっており、育児は女性だけがするわけではなく、男性も当然育児に参加していくバージョンがどんどん増えてくると思う。そういった根本的な時間だけではなく、働き方の根本的な考え方が変わってきていると思うので、感覚的に500人の1.1倍から1.2倍程度は必要ではないかと考える。」

青木大輔副理事長 「その時も1施設最低3という数字があったと思う。先ほどの話にも通じるが、徐々に達成できるような数字を当時見せていただいております、ある意味良い方向かなと感じていた。その24年からの状況がもし大きく影響するのであれば、大変な作業になる可能性もあるが、ぜひリバイズをしていただく必要があると思った。」

木村正理事長 「その差が、我々の将来ビジョンを考える上で非常に大事なことだ。どういう体制

で何人ぐらい必要なのかということを見ると、とても大事な作業だと思うので、また未来委員会等も中心になって検討いただきたい。」

7) 医療安全推進委員会（亀井良政委員長）

- (1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和4年6月の医療事故調査制度現況報告 (https://www.medsafe.or.jp/modules/news/index.php?content_id=256) を受領した。

亀井良政委員長 「6月に医療事故は、産婦人科ではなかった。」

8) 公益事業推進委員会（小林陽一委員長）

- (1) 本委員会のメンバーを中心に、いわゆる『生理の貧困』に関する啓発のための「動画コンテンツ」作成を進めている。

小林陽一委員長 「8月9日にWeb会議を予定しており、ある程度できたら、リプロダクティブヘルス普及推進委員会の先生方にも、目通しいただこうと思っている。」

9) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（横山良仁委員長）

- (1) 会議開催

令和4年度第2回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会	6月27日（メール会議）
-----------------------------	--------------

- (2) 『米国最高裁の「ロー対ウエイド」判決を覆す判断に抗議する』声明文を本会HPへ掲載し、会員にもメール一斉配信し周知を図った（令和4年7月6日付け）。[資料：リプロダクティブ1]

横山良仁委員長 「アメリカ最高裁の人工妊娠中絶を認めない判決に対する抗議文。いわゆる声明文を本会のホームページで掲載し、会員にもメールで一斉配信をし、周知を行ったもの。ホームページに載っているので皆さん一度目を通していただきたい。」

木村正理事長 「大変タイムリーに、反ロー対ウエイド判決に対する声明文を作っていただき感謝する。最近ツイッターなどを見るようになり、「日本産科婦人科学会」でエゴサーチをしていると、これが結構話題になっていて何回か出ていた。工藤先生が言われるようにSNSはなかなか厳しいなということが良く分かった。大変評価している書き込みがある一方、日産婦ごときが何を言っ取るのだといった書きこみもあり、特に経口避妊薬と絡めているいろいろ書く人がいるなど、つくづく思った次第。こういった形で話題になるのは非常に良いことだと思う。感謝申し上げます。」

大須賀穰常務理事 「このロー対ウエイドの声明は、記者会見などのメディアに届いているか。確認したい。」

横山良仁委員長 「今回はしていない。」

木村正理事長 「記者会見のあとのため、出さなかった。次の記者会見の時期は随分先なので、場合によっては何かメールなどでさらっと出しておくのとよいのではないかと。通知だけしておけば、

メディアが後追いで何か記事を出すときに、そういえば日産婦が何かやっていたなと思い出してくる。」

大須賀穰常務理事 「承知した。」

木村正理事長 「厚労省記者クラブに以前より投げ込みをしているので、こういったものも出したということで、置きたいと思う。指摘いただき感謝する。他よろしいか。」

(3)令和4年度定時総会において報告した『セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ普及推進宣言』（和文版・英文版）を本学会HPへ掲載した（令和4年7月15日付け）。

(4)厚生労働省子ども家庭局母子保健課より「令和4年度健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）」の開催案内（令和4年10月27日（木）、10月28日（金） 於 島根県民会館）を受領した。
[資料：リプロダクティブ2]

10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会（宮城悦子委員長）

(1)「産婦人科・頭頸部外科ジョイントセミナー～HPV ワクチンによるがん予防～（仮）」について
[資料：子宮頸がん1]

宮城悦子委員長 「今年度もメディアや一般の方向けのセミナーについて考えてきたが、今回は、耳鼻科頭頸部外科学会が、HPV ワクチンについて積極的な動きをしており、共催でセミナーを開催することになった。11月11日のため、9月の理事会で、正式な最終プログラムを提示する。メディアの方には現地に来ていただき、一般の方はウェブ参加で準備を進めている。」

木村正理事長 「ジョイントセミナーということで頭頸部外科、耳鼻科の先生方も中咽頭がんのHPVに関しては非常に熱心に活動していただいている。」

宮城悦子委員長 「頭頸部外科は9価HPV ワクチンの定期接種にかなりフォーカスを絞って、これから積極的に動いていく方向と聞いている。日本でもじわじわ若い方の16型関連咽頭がん等が増えているというデータを出していただけたらと思うので、メディアも注目すると思う。」

木村正理事長 「ありがたい。是非とも、引き続きよろしく願います。」

11) SARS-CoV2（新型コロナウイルス）感染対策委員会（川名敬委員長）

(1)6月27日付けで、「妊婦への新型コロナウイルスワクチン接種に関する積極的勧奨の再度のお願い」をホームページに掲載した。
[資料：感染対策1]

川名敬委員長 「数ヶ月もしくは半年ぐらいの間に出てきた新型コロナウイルスワクチンの妊婦への投与に関する安全性や有効性に関するデータを、会員の先生方向けにまとめたもの。特にこのタイミングで出した理由は、山田先生が中心となってまとめられたレジストリーのデータが、医会もしくは本会の周産期委員会から発信されたのがこの時期であり、それに合わせる形で、そのデータに基づくものも含めた紹介を会員に周知したいということで出したもの。一時期8割近い妊婦がワクチン接種を受けていたが、そのあとに妊娠された方々は、3回目接種が6割程度で、ワクチン未接種の妊婦が最近増えてきていることが危惧される。先生方が日常診療中、ワクチンの必要性、安全性を再度説明する際に、ご利用いただきたい資料として出したもの。」

木村正理事長 「非常にいいタイミングで出していただいた。今思えば、コロナ感染が増える前に

出したので良かったと思う。一方で、一般の方にこれを出したら混乱するか。一般医療機関はワクチンどころではないということになっているのか。川名先生どう思うか。」

川名敬委員長 「この行動制限なしの中で、唯一感染者数を減らすのは、ワクチンしかなく、オミクロン BA5 にしても、それなりの効果があると言われているので、やはりワクチン接種を推進するための啓発は、一般の方にも改めてした方が妊婦の不安解消になると思う。」

木村正理事長 「これを焼き直して、一般の方にもう一度出すということではよろしいか。」

川名敬委員長 「了解。」

加藤聖子副理事長 「予防接種推進協議会に出ているが、その場でも、小児のワクチン接種率が低いというのが話題になっていた。産婦人科は学会が中心になってワクチン接種を推進されて、大変良い活動であると言われていた。ということで本件は進めていいと思う。」

木村正理事長 「一般向けにもそういった活動をやっていく必要があると思う。」

藤井知行顧問 「今までワクチンを打ってなかった方、1回目2回目打って、2回目で副反応がひどかったとか、それから、そもそも1回目すら打ってない人もたまにいるが、そういう人に今回の3回目は、武田のペプチドのワクチンが使えます。新しい種類の今までと違うワクチンを3回目は打てますと書くと、「そうなんだ」と、「では受けてみようかな」という人が結構いると思われる。先ほどの文章の中に入れるといいのではと思う。」

木村正理事長 「非常に貴重なご示唆いただいた。また検討して、発出する方向で考えたいので、よろしく願います。ちょうど今はタイムリーな時期だと思うので、6月末に先生方にはお知らせしたところだが、同じように、一般の方にも発出するのが良いと思う。」

12) 臨床研究審査委員会 (万代昌紀委員長)

(1) 会議開催

第1回臨床研究審査委員会 (WEB 開催)

7月25日(月)【予定】

万代昌紀委員長 「先ほどからいくつかデータベースの話がでてきているが、そのデータベースの利用についての審査をしているのが、当委員会の主な仕事だ。このデータベース事業自体は元来三上先生の倫理委員会内の臨床研究審査小委員会が、本会内で IRB として審査し、承認したという経緯である。それがこのままでいいのかどうかという議論が委員からでてきており、2世代ぐらい前の先生はまだ PI のままになっているという状況もあるようで、こちらでしっかり調べて、どのように今後、データベース事業を運用していくべきかということをご提案していきたいと思う。」

木村正理事長 「ありがたい。データベースは本会の宝なので、是非とも検討いただき、良い方法で、継続強化していただきたいと思います。よろしく願います。」

以上